



“少女たち”とともに立ち上がって



日本カトリック難民移住移動者委員会
委員長 松浦 悟郎

一口に人身取引（売買）と言っても、さまざまな形があります。

共通していることは、人間がその尊厳を大切にされず、「商品」として売買されていくことでしょう。日本の場合、賃金搾取、自由を奪い暴力をふるうなどが多くの職種にまで及んでいますが、表向きは雇用の形をとって

いるために一般の人々には人身取引とは意識されず、問題が見えにくくなっています。

世界地図で人身取引の流れを見られるとしたら、傾向がはっきり見えるでしょう。人は生きのびるために貧しい地域から豊かな土地へ、争いのあるところから安全なところへと移動していきます。こうした人々は皆弱い立場に置かれており、選択肢がないことから人身取引のターゲットになってしまうのです。

実はかつては日本も貧しく、特に貧しい農村、漁村の女性たちが地方から都市へ、そして海外へと売られていった歴史があります。彼女らは「から（唐）ゆきさん」と呼ばれ、19世紀後半、すなわち明治時代から昭和の初期まで、貧しさゆえに、中国、フィリピン、タイ、インドネシア、遠くはロシア、アフリカまで多くの女性が売買されていったのです。彼らの中には、売られていったその土地で亡くなり、石ころのような墓が草むらの中にひっそりと置かれているところもあります。どれほど苦しく寂しかったことでしょう。

問題は、この事実を日本人がほとんど知らないということです。当時、日本は近代国家への仲間入りをするために、国際社会から批判の出た公娼制度を廃止（1920年）しますが、この「からゆきさん」の事実を「国家の恥」として隠そうとして闇へ葬っていったのです。もし、この事実を痛みとしてしっかり学んでいたなら、現在、逆に経済的に豊かになった日本に、生き延びるためにやって来る難民移住移動者たちに対して、深い理解を持てたと思います。

“タリタクム（少女よ、起きなさい）”（マルコ 5:41）、これはヤイロの娘だけでなく、あの「からゆきさん」に象徴される苦しむすべての人（少女たち）に向かってイエスが、「私もあなたのところにいるから一緒に立ち上がろう」と呼びかけた言葉でもあると思います。

もうすぐクリスマス、そのために主は私たちのところに来てくださった。

セミナーのテーマ：「1年後：人身取引に対する COVID-19 の影響」

タリタクム日本は、人身取引の現実を共に学び、より多くの人に知っていただくため、毎年セミナーを開催しています。昨年9月には3回連続のセミナー「人身取引と新型コロナの影響～世界・日本の状況とこれからの教会」を実施しました。それから一年が経ち、この一年、新型コロナウイルスが技能実習生、留学生、難民の方たちにどのような影響を与えてきたのか、そして現状はどのような状況なのかを共に学ぶことを目的に今回のテーマが設定されました。今年は10月16日に、オンラインでセミナーが開催されました。このセミナーには100以上の登録があり、350名以上の方が参加してくださいました。少しずつ人身取引への関心が広がっていることがこの数にも現れていると思います。

1. ご挨拶 カトリックさいたま教区司教、タリタクム担当司教 山野内 倫昭司教様より

「わたしたちは人類として初めてこのようなパンデミックを体験し、この体験によりいくつかのとても大事なことを実感し意識したのではないのでしょうか」と、今回のパンデミックを、教会、そしてわたしたちは、大きな「時のしるし」として受けとめる必要性があることを思い起こさせてくださいました。それは、同じ一つの地球の中で、すべての生き物と共に生きていかなければならないこと、日本の教会はそれに応えて、特に苦しむ人々、その人々の中におられるキリストのもとに向いて行っていることなどです。こうした教会内外での動きをこのセミナーで学び、「共に生きていくための希望と恵みのときとしましょう」と司教様は呼びかけてくださいました。

2. 一全国での教会内外の取り組みー 「COVID-19による影響と教会の取り組みについて」

J - CaRM 委員 山岸 素子さんより

山岸素子さんから全国での教会内外の取り組みについてお話いただきました。山岸さんは「移住者と連帯する全国ネットワーク」の事務局長をしておられるなど、幅広いネットワークを築いているご自身の経験をもとに、技能実習生と留学生、難民の方たちが日本で搾取されてきた現実、被害にあっても支援体制が整っていないなどの実態報告に始まり、新型コロナの影響で現状はさらに厳しい状況であるということを知りやすく説明してくださいました。こうした状況の中で、カトリック教会は他の支援団体とのネットワークのもと、すぐに食糧支援や現金給付支援を行い、また帰国難民となった方たちに宿泊施設を提供する取り組みを各地でしてきたこと、J - CaRM では技能実習生や留学生として多く日本に滞在しているベトナム人のため、「ベトナム人技能実習生ホットライン」を開催し、これまでに10数回にわたって行われた電話相談の中で、給料の不払い、暴力などのハラスメントのために転職したいなどの声が多く寄せられ、現状が見えてきたなどの報告がなされました。そして、わたしたちキリスト者にとって大事なことは、コロナ禍を乗り越え、差別や分断ではなく、誰も排除することなく、すべての人が共に生きられる世界を追求していくため、信頼と連帯を広げ、共助と公助を社会の中でも教会の中でも訴え続けていくことだとの力強いメッセージをお話を締めくくられました。

3. 事例報告その1 札幌教区 カトリック手稲（ていね）教会 徳能 恵子さんより

各地からの事例報告の最初は、徳能さんからの報告でした。徳能さんは手稲教会を中心に、主にベトナムからの技能実習生や留学生を支援していらっしゃる方です。COVID-19 感染が拡大してからは、特にFace bookを通じてベトナム語での相談を受け、日本語のできるベトナム人の方や教会の他のメンバーの方々と連携し、一緒に支援をしてこられたそうです。とくに、行政からの督促状など難しい日本語で書かれたハガキを説明し、行政の必要な支援が受けられるよう手伝ったり、コロナに感染または、濃厚接触者として隔離されたり、コロナのために経営者側から不利益を得ている技能実習生のために、必要な物資を届けたり、給付金などの行政からの支援を正當に受けられるよう尽力した事例を具体的に説明してくださいました。徳能さんが小教区の方たちと一緒に、体当たりで支援活動に邁進された様子が伺え、心が燃やされました。

4. 事例報告その2 **さいたま教区** ビンセンシオ・ア・パウ愛徳姉妹会 シスターレ・ティ・ラン・マリアより

事例報告の2番目に、シスターマリア・ランから川口教会でのベトナム人支援のお話を伺いました。シスターはこれまで、司教様の支えのもと、ベトナムの司祭や川口教会のベトナム人グループ、修道者たちと連携して、主としてベトナムの方たちのために食料支援、妊婦さんのための無料健康相談、法律相談、オンライン相談、シェルターへの保護などを行って、苦しむ人々を支えてられました。最近では、乳児のためのミルク支援をしている他、妊娠した女性たちや家庭内で暴力を受けている女性たちの声が多く届けられるようになってきており、その相談にのっているとのことでした。DVに関しては、ビザ取得のためのブローカーによる結婚が多く、また家庭内のことなので踏み込むことが難しいと話されていました。様々な問題がある中、ベトナムに帰国した人身取引の被害者を母国ベトナムのシスターや司祭たちがサポートしているという新たな連携の報告もなされ、必要な支援のネットワークが広がり希望と聖霊の働きを感じました。また、シスターマリア・ランの笑顔と傾聴の姿勢に多くの方が救われているのだろうと感じました。

5. 事例報告その3 **大阪教区** 社会活動センターシナピス ビスカルド篤子さんから

3番目の報告者は大阪シナピスのビスカルド篤子さんからでした。ビスカルドさんはこれまで関わってきたアフリカの女性たちのことを事例として挙げ、わたしたちに具体的な示唆をくださいました。性的搾取をされている女性たちは自ら「わたしは人身取引の被害者です」とは言わないので、難民申請の陳情書を作成するとき経緯を聴くなどする中で、こちらが気づいてあげることが大事であるということでした。また、傾聴する中での注意点として、性的に搾取されて妊娠していたり、子どもがいる肌の黒い女性に好奇心を向け、安易に「どうしてそうなったの？」などと不躰けな質問することについて、「それはしてはいけないことです」と、私たちが陥りやすいマイナス面を指摘してくださいました。そして、なによりも大事なことは、母子共ども「安定した在留資格をとれるよう助けること」、そして、「ゆるやかに、だけれどもその人のことを気に掛ける配慮」さらに、「日本での子育てを押し付けないこと」など、具体的な関わりにおいて気を付けるべき点を示してくださいました。ビスカルドさんは最後に、「こうしたタリタクムのネットワークを活かし、しっかり事例を精査しながら、支援の輪を広げていきましょう」と参加者に呼びかけられました。いつもパワフルに人々に寄り添うビスカルドさんに、今回も力をいただきました。

6. コメント **タリタクムアジアコーディネーター** Sr. アビー アベリーノ (メリノール女子修道会)

シスターアビーは、このセミナーにおいて、報告者は明確な状況を示してくれたと、最初に報告への感謝を述べられ、それぞれの報告の内容の大事なポイントを指摘し、その上で、次のような示唆を下さいました。まず、コロナ禍にあって地元の労働組合などと共に支援活動を開始したタリタクムベトナムを例に、COVID-19の世界において、教会内外でのネットワークをますます築いていくことの重要性を述べられました。COVID-19によって世界中の人々の脆弱性が表に出てきましたが、それは同時に協働することの大切さをも示したのだと、長いコロナの闇に見えた一筋の光のような気づきを共有してくださいました。そして、このセミナーで分かち合われた人身取引、搾取された人たち、特に今コロナウイルスで影響を受けている人ために、こうしたセミナーやワークショップを行ったり、情報を共有したり、反人身取引の活動を継続すること、国際的なレベル、地元の市民団体、NGOなどとのネットワークのもと、留まることなく、それぞれの場で活動していくよう励まされました。そして、タリタクムの目的とする「人身取引の被害者のケアをし、傷を癒し、声なき人の声となること、そして、正義を実現していくこと」を一緒に実現にしていこう呼びかけられました。

最後に・・・ **タリタクム運営委員長** Sr. 森下ワカヨ (サレジアンシスターズ)

その後、質疑応答があり、その一つの「これから具体的にベトナムの人の支援を始めるためにどうしたらよいか」との問いかけに、小教区にベトナムの人がいれば、初めから問題を聞き出すのではなく、親しくなって交流をもつ、日本語教室を開く、彼らが活動する場を提供するなどしながら、関係づくりしていくことで相談してもらえるようになる、一人ひとりとの絆を築くことが大切であるとの具体的アドバイスを、失敗談も交えながら報告者の方々からいただきました。このセミナーに参加して、「わたしにできることは？」と考え始めてくださった皆様と共に、これからもネットワークを組んで歩んでいきたいと思えます。参加してくださった皆様ありがとうございました！

Sr. アビー アベリノ
タリタクムインターナショナル
アジアコーディネーター

昨年以降、タリタクムネットワークの活動や人々の移動は困難な状態が続いています。アジア各国でも、パンデミックの影響で多くの人々が仕事を失い、何十万人もの人々が亡くなり、多くの移民が突然、母国に戻っていきました。さらに現在、経済的な不安定さのため、多くの人々が人身取引の危険に晒され、特に女性や子供、移民が狙われています。私たちはコロナ禍にあっても、人身取引の被害者や生存者への介入や同行のためにできることを続けています。

アジアの地域では、オンラインで人身取引予防のトレーニング・セミナー・情報共有等の取り組みを継続しています。

1. アジアのタリタクムネットワークは2020年10月から2021年9月まで、人身取引の予防、保護、キャパシティビルディング、ネットワークとコラボレーションの強化を目的としたウェビナーを毎月開催しました。この取り組みは2022年1月から再開する予定です。
2. 新たにタリタクムネットワークを立ち上げたベトナム、カンボジア、バングラデシュを含むアジアの7カ国でオンライントレーニングを実施しました。
3. 「人身取引問題に取り組むタリタクムユースアンバサダー」プログラムを開始し、25名の若者がアンバサダーとしてのトレーニングを修了しました。アンバサダーは今後、人身取引防止活動への参加を、若者中心に呼びかけていきます。
4. アジアのいくつかのネットワークでは、人身取引の影響を受けているバングラデシュ、フィリピン、タイ、ベトナム、スリランカ、インドネシア、パキスタンなどの村や町で、オンサイト・セミナーを始めました。

国際レベルでは、2020-2025年の戦略的プランに向けて Talitha Kum ネットワークの形成とトレーニングが進行中です。6月～7月にはアジア諸国向けのオンライントレーニングが行われ、11月～12月にはアフリカ諸国でトレーニングが実施されます。

また、2022年3月から2023年3月には「第3回タリタクムリーダー養成コース」がオンラインで開催されることとなり、現在参加を呼び掛けています。

また、11月25日にはタリタクムの「Call to Action Advocacy」ポジション・ステートメントが発表されました。このステートメントは、人身取引撲滅のための役割を担う国、国際機関、市民社会組織、民間企業、学術機関など組織や個人を含む、グローバル・ガバナンスのステークホルダーに働きかける試みです。

11月22日から26日までローマで Talitha Kum International Coordination Committee (TKICC) が開催され、グローバルネットワーク全体の計画と評価が行われました。その中で、2月8日の「人身取引に反対する祈りと啓発の日」のイベント企画を議論しました2022年のテーマは「女性と経済」です。

タリタクムユースアンバサダーについて

Sr. アビー・アベリノ

タリタクムアジアはこの度、「人身取引に反対するタリタクムユースアンバサダー」プログラムを開始しました。このプログラムを通して、より多くの若者に人身取引について知ってもらい、特に予防に関わることを推進していきます。25名の若者が人身取引防止大使になるため、9月5日10月3日までの日曜日に6日間、Sr. ガブリエラ・ボッタニとステファノ ボルピチェリ教授によるオンライントレーニングを受講し修了しました。このトレーニングは、人身取引や搾取の概念や背景、人身取引問題における若者の役割、人身取引防止のための意識について、概要を説明することを目的としています。トレーニングの最後には、参加者全員が学習成果とアクションプランを発表しました。

タリタクム日本は、このユースアンバサダープログラムが、タリタクムの全体的なビジョンや目標に対する若者たちのコミットメントを深め、拡大していくことにつながることを願っています。

- 人身取引とその防止に関する若者の意識を高めること。
- 人身取引問題を理解するために若者の参加を促進すること
- 学校、職場、地域社会においてキャンペーンを実施したり、仲間内で取り組みを開始したりする若者リーダーや擁護者をトレーニングし、活動に同行しながら育成すること。



トレーニングには、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、韓国、バングラデシュ、スリランカ、インド、パキスタン、イタリアから19歳から35歳までの若者が参加し、日本からは、小林恭平さん（写真中、日本人-フィリピン人）、クリスタル・アイレンさん（写真右、インドネシア人-早稲田大学在学中）、細井理沙さん（写真左、日本人-東京出身-北海道在住の医学生）の3名が参加しました。

ユースアンバサダーはこれから、それぞれの国のタリタクムネットワークと協力して、人身取引や搾取に対する意識向上やアドボカシー活動を行います。

タリタクム 人身取引に終止符を！

TALITHA KUM
END HUMAN TRAFFICKING



レニーレンティエーノ
(タリタクム日本定例委員)

女性の権利に関するカウンセリングと情報提供

パートナーに遺棄された2人のフィリピン人妊婦のケースが寄せられました。彼女たちはパートナーが去ったあと、何をしたらいいのか、誰を信じたらいいのか、混乱し恐れていました。

2人の女性は、パンデミック発生時に観光目的で来日しました。しかし、パンデミックによって彼女たちは帰国できなくなり、日本での滞在が長引く結果となりました。生活のため、必死になってスナックで働き、そこでパートナー（加害者）と出会います。交際を始めて親密な関係になり、その結果予期せぬ妊娠をしてしまったのです。

ジョイさん（仮名）は、同じフィリピン人である子どもの父親が独身だと信じていましたが、後になって既婚者であることがわかりました。彼は彼女を捨てて去っていきました。その後ジョイさんは、別の日本人男性と出会い、結婚して子供も自分の子どもにする、との約束を信じていました。しかし2ヶ月間一緒に暮らしてみると、彼に虐待や支配的な傾向があるとわかり、友人の家に逃げ込みました。相談窓口で電話を掛けた時はまだ、虐待を受けていた相手のもとに戻るかどうか決めかねていたそうです。

タリタクムでは、ジョイさんがすすむべき道を選択するまで彼女に付き添い、日本人パートナーのもとに戻る場合、パートナーの元を離れてシェルターに入る場合など、いろいろな選択肢とその結果について考えました。もう一つ、妊娠中の移民女性として利用できる公的支援についての情報を提供しました。ジョイさんは、パートナーのもとに戻るかどうかを決めるのにもう少し時間が欲しいと言いました。タリタクムは人間中心のアプローチを大切にしています。

ジョアンさん（仮名）の場合、パートナーは未婚の男性で二人は結婚する予定でした。しかし7ヶ月間一緒に暮らした後、ジョアンさんに対する男性の態度が変わりました。彼女に暴言を吐くようになり、言葉と身体への暴力がはじまりました。ジョアンさんは「別の女性が原因」だと思いました。さらに、男性の両親が二人の結婚に反対していました。ジョアンさんが家賃を払えなくなると、男性は彼女のもとから離れました。ジョアンさんはアパートを手放し、現在はフィリピン人の友人と暮らしています。

ジョアンさんと別れる前、パートナーは子供の認知を承諾しサインしていました。弁護士や、区役所と連絡を取っている支援団体などがジョアンさんをサポートしていましたが、弁護士から、在留資格延長の費用について後から請求されたり、支援団体からは、父親に子どもを奪われる、と脅されることもあり、ジョアンさんは支援者たちのことを信じられず、不安に陥っていました。

タリタクムは、精神的・心理的なサポートを行うとともに、彼女自身の権利や、子どもが日本人の子供として保障されている権利についてアドバイスして次のステップへの導入を行いました。この伴走を通して、ジョアンさんは自信をもって権利を主張するようになりました。現在、ジョアンさんは在留資格を延長し、区役所が提供するシェルターに移る準備をしているところです。12月には出産を控えています。

タリタクムは、苦境にある移民女性、特に人身取引の被害に遭いやすい女性の支援を続け、どんな形であれ、彼女らのケースに介入するよう心がけています。

「みんなの姉妹」 聖ジュゼッピーナ・バキータ



Sr. マルティネス・ヴァレリア
(カノッサ修道女会)

教皇ヨハネ・パウロ二世はマドレ・ジュゼッピーナ・バキータを列福されたとき、「みんなの姉妹」として私たちに与えてくださいました。こうしてバキータは新しい使命を受けました。自分の人生の物語を知らせることによって、苦しんでいる人、特に不正義に圧迫されている人々、人間の尊厳を奪われている人々のために希望の星になり、同伴する姉妹となりました。

バキータは7歳の頃自分の家族と故郷を奪われ、幼い者であることの同情など一切なく、物のように扱われました。バキータは身に味わった体験を話しながら、その寂しさ、苦しさを伝えてくださいます。しかし、怒りも、ねたみもありません。だからこそ、たくさんの兄弟姉妹のために光、希望になっています。



このようにできたバキータには秘密があります。アフリカからイタリアに渡ったとき初めて十字架をいただき、イエス・キリストの話を聞いたことでした。「神様が自分のために命をささげてくださった」という「良い知らせ」を聞いた時、バキータは本当の「主」を見つけました。今まで味わったことのない自由、尊厳を知り、その方から離れたくない望みを心に抱きました。信仰の道を歩き始めたバキータは、自分の人生におこったすべての出来事が神さまの神秘的なみ摂理の中で行われていることを発見しました。ある時、青年が「もし、あなたが自分を強奪した奴隷商人たちに会ったら、どうされますか」と彼女に質問したことがありました。シスターは一瞬のためらいもなく、「私を強奪した奴隷商人たち、不当に扱い激しい苦痛を与えた人々にもし会えたら、わたしは彼らの前にひざまずき、その手に接吻するでしょう。なぜなら、そのことがなかったら、私は今、こうしてキリスト者でも修道女でもないからです」

バキータは、自分の心の悪の連続を切り離しました。苦しみから解放して下さったいつくしみ深い御父がバキータの心を満たし、その傷を癒していたので、感謝と喜びのうちに生きていました。どのようにこの愛徳の頂点に到達できたのでしょうか。それはバキータと神さまの親密な関係にあります。祈りの中で十字架につけられているイエスの愛を観想しながら、自分に苦痛を与えた人をゆるし、その人々の救いを望みました。

「みんなの姉妹」という使命を受けた聖ジュゼッピーナ・バキータが、私たちのためにとりなしてくださいませように。あらゆる奴隷の状況に苦しんでいる兄弟姉妹の解放のために取り組んでいる私たちも、イエス・キリストの愛をもって癒しと救いを与えることができますように。



2022年2月8日「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」に参加しましょう！

2月8日はスーダン出身の聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日です。

この日を女子修道会の国際総長会議（USIG）は「世界反人身取引、祈りと黙想と行動の日

（International Day of Prayer and Awareness against Human Trafficking）」としました。この日を記念して、教皇フランシスコは祈りと行動を呼びかけておられます。タリタクム日本では2022年も、オンラインつながって祈るひと時（オンラインプレーヤー）を企画しています。詳細が決まり次第、日本カトリック難民移住移動者委員会（J-CaRM）ウェブページ <https://www.jcarm.com/> でお知らせします。ぜひ、ご参加いただけますようお願いいたします。



2月8日は、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」、そして聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日です。

聖ジュゼッピーナ・バキータをご存知ですか？
スーダン出身の聖バキータは、7歳で誘拐され、
奴隷として売られ、スーダンとイタリアで働いた後に
自由になり、洗礼を受けて、カノッサ修道会修道女と
なり、2000年に列聖されました。



わたしたちのアクションをとりまとめて、力を結集することが
必要です。「人身取引にともに対処しよう」のテーマを通し
て、それぞれができることに応じながら、この日の祈りと黙想
と行動に参加することが呼びかけられています。

【参照】 [国際タリタクムウェブサイト](#)
[カノッサ修道会本部ウェブサイト](#)
[カノッサ修道会ウェブサイト](#)
『使徒的勧告 喜びに喜べ 現代世界における聖性』32番



神は、人がみな、聖なる者、幸せな者となることを望んでおられます。父である神の愛に信頼することによって、わたしたちはあらゆる形態の束縛から解放され、人間の偉大な尊厳に気づき、本当の自分自身になります。教皇フランシスコは、このことが聖ジュゼッピーナ・バキータのうちにみられると強調されます。

祈りましょう。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、あなたは、わずか7歳で誘拐されて奴隷として売られ、残酷な主人たちからひどい苦しみを受けました。やがて、あなたは、人間ではなく、神こそがすべての人間の、また、すべての人生の主人であるという深い真実を理解するようになりました。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、父である神の愛を知らず、自分の尊厳を守ることのできないすべての人のとりなし手となってください。

囚われの身となっている鎖が断ち切られるように、憐れみ深い神に取り次いでください。

神ご自身が、現代の人身取引といわれる鎖によって脅かされ、傷つき、不当な扱いをされているすべての人を解放してください。

不当な束縛から解放された人々に慰めがもたらされ、かれらの傷が癒され、イエスを希望と信頼をもって見つめることができるよう導いてください。

わたしたちが周囲に生じている出来事に対して無関心に陥らず、目を開き、尊厳と自由を奪われた多くの兄弟姉妹の悲惨さと傷を見ることができますように。

そして、助けをもとめる人々の叫びを聞くことができるように、わたしたちのために祈り、とりなしてください。

わたしたちの主、イエス・キリストによって、アーメン。

募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくようお願いいたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄に☑を入れるか、
通信欄に「タリタクム日本」と明記してください。

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話：03-5632-4441 FAX：03-5632-7920 E-mail：jcarm@cbcj.catholic.jp